

令和4年度 宮崎大学入札監視委員会議事概要

開催日及び場所	令和4年12月21日（水曜日） 宮崎大学事務局4階会議室	
委員	委員長 中澤 隆雄 委員 福山 裕茂 委員 町元 真也	
審議対象期間	令和4年1月1日～10月31日	
抽出案件（合計）	2件	（備考）宮崎大学入札監視委員会細則第5条に基づき、互選により中澤委員が委員長に選出された。 今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。
建設工事（小計）	2件	
一般競争入札 （政府調達に関する協定対象工事）	0件	
一般競争入札 （上記工事を除く）	2件	
工事希望型競争入札	0件	
通常指名競争入札	0件	
随意契約	0件	
設計・コンサルティング業務（小計）	0件	
標準型プロポーザル方式	0件	
委員からの意見・質問及びそれに対する回答	意見・質問	
	回答	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

別紙

質 問	回 答
<p>1. 令和4年1～10月の入札・契約結果について (事務局から説明) 委員からの意見なし</p> <p>2. 建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議 (事務局から説明)</p> <p>(1) 一般競争入札 【(木花)工学部総合研究棟等外壁改修その他工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目、2回目の入札価格と予定価格との間に乖離があるが、この乖離の原因について、どのように考えているか。 ・ 予定価格は最新の物価資料等を基に算出しているのか。 ・ 3者から参考見積を徴取し、予定価格を作成したと説明資料に記載されているが、3者には落札したアイワ工業(株)も含まれているのか。 ・ アイワ工業(株)の1回目の入札価格と予定価格の間には2,000万円弱の金額差があるが、この差額をどのように予定価格まで減額したのか推測できるか。 ・ アスベストの処分については、宮崎県内で実施するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本改修工事は、外壁の吹付材にアスベストが含まれていることが判明したことから、そのアスベストの処分も含んだ内容となっている。その処分費用の見積もりが1回目、2回目の入札価格に影響したと考えている。 ・ 最新の物価資料等の単価表や複数者から徴取した見積を審査し、適正に算出している。 ・ アイワ工業(株)から屋根防水と外壁改修についての部分的な見積を徴取していた。アスベストの処分部分については別の業者から見積を徴取し、予定価格を作成した。 ・ 外壁の吹付材に含まれるアスベストの処分は、アイワ工業(株)では実施できないため、下請の専門業者が実施することになる。この下請けとなる業者の処分費用をアイワ工業(株)は当初高めに設定していたと考えられる。 ・ 都城市にある管理型最終処分場に運搬して処分する。

<ul style="list-style-type: none"> ・アスベストの処分費用は単価が決まっているのか。 ・アスベストを含む吹付材の撤去作業については、健康被害を出さないように大学側で監督を行っているのか。 ・工学部の建物については、建設から30年以上経過しているが、建設当初から吹付材のアスベストについて問題となっていたのか。 ・どれくらい前から建築資材にアスベストが使われなくなったか。 ・宮崎県内でアスベストの除去ができる業者は少ないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アスベストの投棄料については受け入れる廃棄場で決まった金額があると思われる。外壁の吹付材の撤去作業や廃棄場までの運搬費用等については、受注する業者によって変わる。 ・アスベストの処分については、法律に則り健康被害を出さないように実施している。 ・建設当初は問題となっていなかった。アスベストに対する規制が年々厳しくなり、最近になって吹付材に含まれるアスベストが規制の対象となった。 ・正確には分からないが、20年以上前にはアスベストの規制が始まっているので、その頃から徐々に使われなくなったと思われる。 ・特殊な方法で除去が必要なものについては、対応できる業者は少ないと思われる。
<p>(2) 一般競争入札</p> <p>【(木花)農学部実験研究棟(Ⅳ期)改修電気工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本件については、Ⅰ期からⅣ期まで同じ業者が落札しているが、このようなパターンが多いのか。 ・2者が入札に参加しており、競争参加資格において1社はA等級で、もう1者はB等級となっているが、A等級とB等級とで技術力に差はあるのか。 ・競争参加資格の等級によっては、入札に参加できない場合があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一連の工事を同じ業者が連続して落札するケースは少ない。Ⅰ期から携わることで工事内容に精通していることから、予定価格の予測しやすい状況であったと考えられる。 ・会社の経営規模や専門技術者の状況等を評価して等級の格付けがなされるので、技術力に明確な差があるとは言えない。しかし、規模の大きい会社は多くの工事を受注することから経験も豊富で管理能力も優れている場合が多い。 ・予定価格の金額によって、入札に参加可能な等級が決まっているため、記載等級以外は参加できない。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事検査の結果に応じて工事成績を評価するの か。 ・ 資料の中にピークカットの文言が見られるが、 ピークカットを実施しているのか。 ・ 太陽光発電の発電量は増えているのか。 ・ 発注数は例年に比べて少ないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全省庁統一の基準で工事成績を評価する。 ・ 省エネのためにピークカットを実施できるよう 設備を導入しているが、令和4年度の夏から職 場環境や学習環境の改善の観点からピークカッ トを中止している。 ・ 全学的にこれから取り入れていくよう検討して いる状況である。 ・ 入札監視委員会の開催時期を早めたため、審議 対象期間が例年に比べて短いことが影響してい る。また、令和3年度は6年区切りの予算計画 の中の最終年度にあたるので、6年間で繰り越 してきた予算を執行する関係で工事件数が多く なったと考えられ、令和4年度は6年間の予算 計画の初年度にあたるため、発注数が少なくな ったと考えられる。
--	---